

図5 福祉亭の活動の様子

時間	10:00 11:00	11:00 12:00	12:00 13:00	13:00 14:00	14:00 15:00	15:00 16:00	16:00 17:00	17:00 18:00
行為								
食事		●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●			
談話			●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●
囲碁 将棋				●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●
飲酒						●●●●●●●●	●●●●●●●●	
読書 新聞		●		●●				
待合	●			●				
相談						●		
一人 佇む		●		●●	●			

●男性 ●女性

図6 時間帯別の行為内容

年齢	60～64	65～69	70～74	75～79	80～85	総計	平均年齢	
	男性	1	6	5	6	1	19	男性平均
女性	2	2	6	4	3	17	女性平均	71.94
総計	3	8	11	10	4	36	全体平均	71.75

身体状況	健康	通院	要支援1	要支援2	目不自由	その他	総計
	男性	6	11	0	0	1	1
女性	7	7	1	2	1	0	17
総計	13	19	1	2	2	1	36

家族構成	独居	同居			総計	別居家族の有無			
		夫婦	夫婦+娘夫婦+子			子供	孫	いない	未回答
女性	6	10	1	2	19	14	6	1	2
男性	9	8	0	0	17	2	8	4	1
総計	15	18	1	2	36	16	14	5	3

図7 福祉亭利用者の基本属性

うことが観察された。一方、男性は2、3名のグループによる囲碁などの趣味活動が主となっているが、読書や一人での飲酒など、他者との交流のない行為もみられた。

また、福祉亭では曜日毎に様々なプログラムを提供している。民生委員や地域包括センター職員による相談も行われ、利用者同士の交流を促すのと同時に個人の相談にも対応し、孤立防止の役割を積極的に果たしている。

調査は、福祉亭を常連的に利用している36名を対象とし、基本属性を図7に示す。男性19人、女性17人で、平均年齢は71.8歳である。要支援1が1名、要支援2が2名となっており、全員在宅で自立した生活を送っている。家族状況は、36名のうち独居が15人おり、そのうち別居の家族がいないのは男女各1名である。多摩市の居住年数は、男性は10年以下が8人と多く、公的賃貸が多いため、高齢期に転居している場合が少ない。一方、女性は居住年数の長い30年以上が9人と多い。

日常生活の様態を図8にまとめた。家事や買い物は、女性は自分でやるが、男性は家族がいる場合は家族に依存する傾向があ

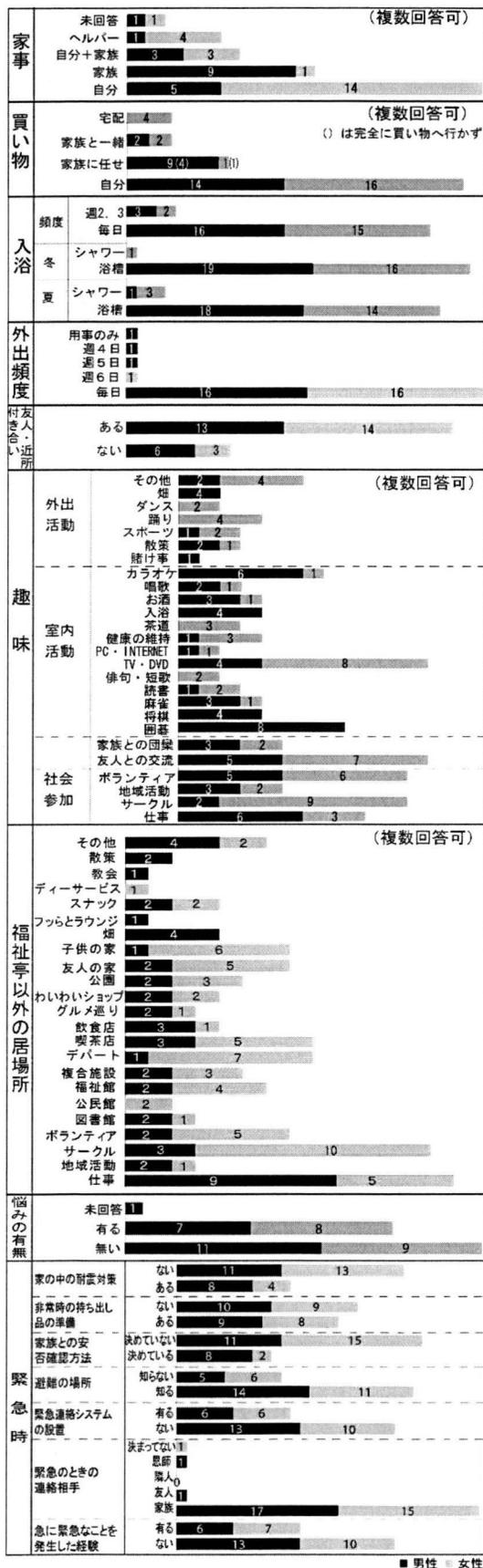


図8 福祉亭利用者の日常生活様態

る。外出も、女性はほとんど毎日外出しているが、男性には外出頻度が少ない人がいる。友人・近所との付き合いも、男性はやや少ない傾向がみられる。

福祉亭以外の居場所については、男性は職場という回答が多く、女性はサークル活動に熱心参加する傾向があり、福祉亭以外に様々な居場所を持っている。緊急時の対応についての男女差は少なく、積極的な対応はとっていない人が多い。

福祉亭の利用状況については、図9に示す。5年以上利用している人が20人と多くを占めており、利用頻度は、毎日利用するのが9人、週3回以上が11人と日常的に利用している様子がわかる。また、来店には徒歩がほとんどだが、バス利用もみられる。

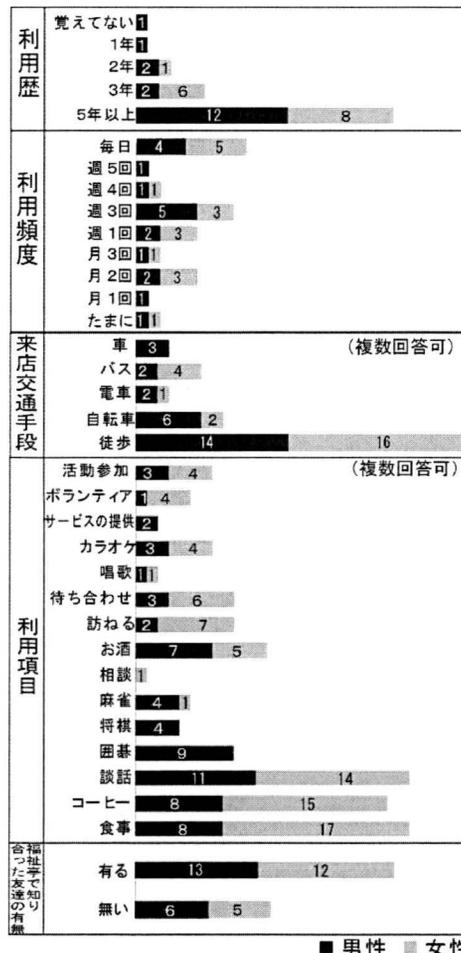


図9 福祉亭の利用状況

2. 暮らしやすさに関するアンケート調査結果

2-1. 諏訪・永山地区住民の基本属性と生活様態

アンケートの集計結果を図10に示す。

1) 基本属性：性別は男女ほぼ同数の回答が得られ、年齢構成は65～74歳の前期高齢者が多い。居住は、永山では公社・公団賃貸が多く、諏訪では公営賃貸住宅が多い。また、居住年数は両地区において20～40年が多い。主観的健康観とうつ症状に関しては、75%程度の人が良好であり、90%以上が要介護認定を受けていないという結果からも、自立し、健康的な高齢者が多いことがうかがえる。

2) 外出行動：外出頻度は、毎日1回外出している人が多く、ほとんどの人がひとりで外出できると回答している。外食の頻度は週に1～2日の回答が多く、医療機関はほとんどの人が月1回以上利用している。

交流活動について、自治会や趣味のサークルや同窓会などには半数以上の人に参加している。一方、老人会やボランティア活動には2割程度の参加である。自宅以外に

安らげる場所は、半数以上が「ある」と回答している。

3) 近隣交流：近所の人との付き合いの程度は、立ち話をする程度が最も多く、9割以上の人は何らかのつながりを持っているが、「いない」という回答も目立つ。会う頻度は、友人や近所の人、別居の家族ともに月に1回程度であり、つきあいの満足度に関しては、友人・近隣・家族ともに75%程度が満足していると回答している。

4) 地域や行政の制度・政策について：高齢者が集う居場所や施設の利用度・認知度については、小学校廃校校舎を生涯学習施設として利用している〔西永山複合〕、〔東永山複合〕と、公設公営の〔老人福祉館〕、メディアによく取りあげられるNPO〔福祉亭〕は認知度が6割を超え、利用経験者が2割を越えて高い。その他の居場所の認知度は20～30%程度にとどまっている。公的な施設の利用は、多摩市役所と永山図書館の利用が多く見られる。

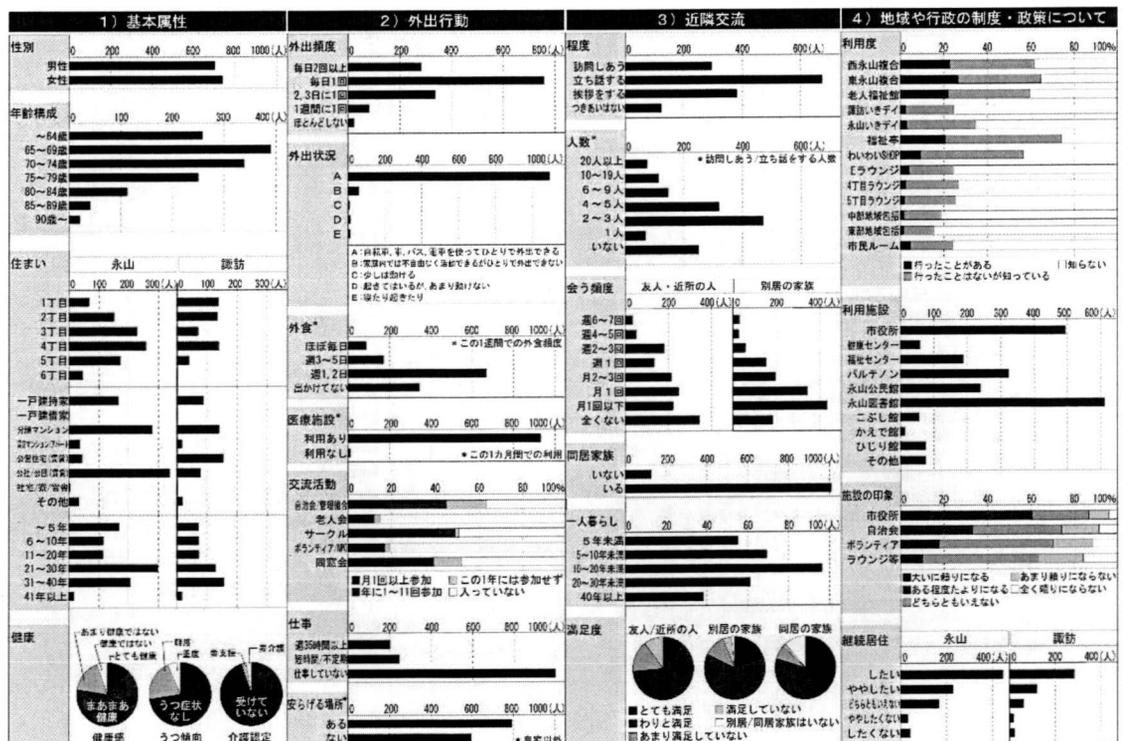


図10 アンケート調査回答者の基本属性と日常生活様態

2-2. 居住地・近隣交流・利用意向からみた居場所の利用と認知

各居場所に対する利用と認知に関して、居住地、近隣づきあい、今後の利用意向の項目ごとに、その割合を図11に示した。

各居場所において、概して、居場所が存在する地区での認知度が高い。学校校舎を利用している【西永山複合】と【東永山複合】は、地区内での偏りはあまり見られず、多方面から利用、認知がされており、認知している人の中で利用したことがある人の割合が高い。生きがいディサービスによる支援型の2つの【いきデイ】や自治会運営による【4丁目ラウンジ】、【5丁目ラウンジ】では、認知度は低く、認知はあるが行ったことがあるという人は少ない結果となっている。このことに関して、【いきデイ】では、登録制

であることや、高齢者施設という性格づけに抵抗を持つ人が少なからずいることが要因として考えられる。【4丁目ラウンジ】、【5丁目ラウンジ】では、設立からまだ日が浅いこと、小さな規模での寄り合い型の活動であるため、誰かの伝やつながりがなければ参加しにくい状況であると推察できる。

近隣づきあいと居場所の利用との関係においては、つきあいの程度が、訪問しあう人がいると回答した人ほど、また、訪問しあう、または立ち話をする人数が多ければ多いほど、さらに、近所の人と会う頻度が多ければ多いほど、各居場所を利用したことがあると回答している。つまり、近隣関係が深まれば居場所の利用度は高まるといえる、逆に、居場所の利用から近隣付き合いのきっかけが生まれるものと推論できる。

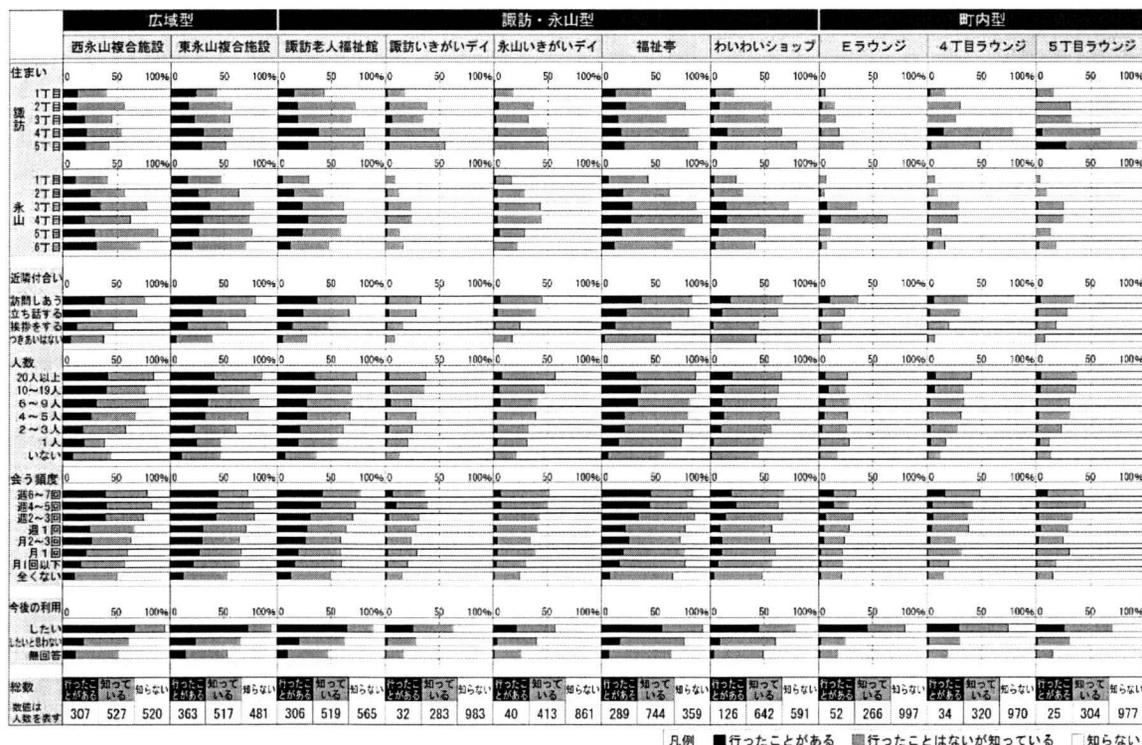


図11 居住地・近隣交流からみた各居場所の利用と認知

今後の利用意向との関係に関しては、各居場所において、今後利用したいと回答した人には、これまでに利用したことがある人が多く、一度の利用経験が今後の利用意向につ

ながるといえる。

D. 考察

調査対象地区のサロン活動の特徴をみる

と、行政支援住民ボランティア運営型サロンは、開催が週2回と限定的だが、自治会メンバーが主体的に運営していることもあり、同じ地区の住民が多く利用し、より地域住民にとって身近な居場所となっている。

一方、NPO運営型地域サロンは、ほぼ毎日オープンし飲食もできるため、前者よりも広範な地域からの利用がみられ、毎日利用する常連にとっては日常の居場所となっている。また、運営するスタッフに日常の様々な出来事を相談する利用者も多く、地域の情報が集積しやすい環境となっている。

何れのサロンにおいても利用者の類型として、複数の居場所を利用するタイプと特定のサロンのみを居場所とするタイプが存在しており、後者のタイプにとってサロンの存在は地域からの孤立を防ぐ重要な役割を果たしている。サロン参加前後で地域の話し相手が顕著に増加するケースもみられた。

見守り効果についても、利用者へ地域の情報が集まるため、例えば、認知症のお年寄りが団地内で迷子になったときにサロンの顔見知りの利用者が助けたといった事例もある。

しかし、サロン利用者の数は限定的であり、サロンを利用しない住民の孤立状況を把握し、地域でのサロンの位置づけや役割を探ることが必要となる。そこで、地域の居場所の認知度、利用度を把握するため、アンケート調査を実施した。居場所や地域施設は、その立地や規模や運営形式などにより認知度や利用度に違いがみられた。また、近隣との付き合いが深くて頻繁な住民ほど地域施設の認知や利用度が高い傾向がみられた。今後、個人の属性や健康状態と認知度や利用度との関係などについてさらに検討が必要である。

E. 結論

1) サロン参加者のうち、特定のサロンに依存する傾向のある利用者にとって、そのサロ

ンの持つ意味は大きく、孤立予防の効果が高い。特に男性にその傾向が強くみられる。

2) 60歳以上の地域住民へのサロン（居場所や地域施設）の認知度は、その立地、規模、運営方法により異なるが、2～7割程度が存在を知っていると回答している。今後更に普及するためには、「高齢者がいくところ」というネガティブなイメージを払拭すること、健康状態や情報不足から真に孤立している住民へ周知し、利用しやすい方法を検討することが課題となる。

F. 引用文献

- 1) 鄭ソイ、山田あすか、上野淳：自立高齢者の地域支援施設のあり方に関する考察。日本建築学会計画系論文集 No.608、35-42、2006.10
- 2) 鄭ソイ、上野淳：自立高齢者を支える地域環境整備の条件に関する研究。日本建築学会計画系論文集 No.616、55-62、2007.06
- 3) 加藤田歌、松本真澄、上野淳：団地住宅における高齢者居住の様態と居住環境整備条件について。日本建築学会計画系論文集 No.600、9-14、2006.2
- 4) 篠田紀行、松本真澄、谷口僚一、上野淳：東京都心下町地域における在宅高齢者の地域生活様態と外出行動に関する調査。日本建築学会技術報告集 NO.26。673-678、2007.12

G. 研究発表

- 1) 松本真澄、余錦芳、上野淳：多摩ニュータウン高齢者支援スペースの活動と利用様態 -永山地区「福祉亭」のケーススタディ 1-、日本建築学会大会講演梗概集F-1 (2009) 1235-1236
- 2) 余錦芳、松本真澄、上野淳：多摩ニュータウン高齢者支援スペース利用者の生活様態 -永山地区「福祉亭」のケーススタディ 2-、日本建築学会大会講演梗概集F-1 (2009) 1237-1238

H. 知的所有権の取得状況

なし

[研究協力者]

上野淳、國上佳代、余錦芳（首都大学東京）

第4章 孤立予防事業の普及啓発に向けての研究

3節 地域における社会関係資本の構築に関する実態調査

長野県須坂市における聞き取り調査

稲葉 陽二

日本大学法学部・政治経済学科

【要旨】平成20年度は長野県須坂市を対象として、地域における信頼・社会参加・地域での活動・生活満足度・利他的な行動などの観点からみたソーシャル・キャピタルの実態を調べるため、須坂市の協力を得て「暮らしの安心・信頼・社会参加に関する調査」を実施した。この調査は、同市に住む20歳以上の成人を対象に住民基本台帳からの無作為抽出サンプル1,500人を対象として、郵送式自記式質問紙法により行い、601人から回答があった（有効回答率40.3%）。これは、1）他人への信頼、2）日常的なつきあいの状況、3）地域での活動状況、4）生活満足度を含む自分自身の生活について、5）寄付・募金活動について、6）回答者の属性について問うものであり、過去に内閣府、日本総研、稲葉・日本総研が実施した全国調査とほぼ同内容の調査となっている。全国調査との比較では、須坂市は他者への信頼、社会参加、社会交流、利他的行動などのソーシャル・キャピタルの諸側面のほとんどで、全国平均よりも高い水準のソーシャル・キャピタルを維持していることが明らかになった。合わせて、主観的健康感と抑うつ度の両面で、社会参加などのソーシャル・キャピタルが相関を持つことが明らかになった。

この調査結果を踏まえ、平成21年度は、ソーシャル・キャピタルの具体的な実態を明らかにするため須坂市民へのヒアリング調査を実施した。ヒアリング調査の結果、須坂市では住民間のネットワークを利用した協調的な活動が多くみられることが明らかになった。これらの活動には利他的な行動をいとわぬキーパーソンが存在するが、同時にそれを支える住民同士の協調的なネットワークがもともと存在すること、地縁的なネットワークとNPOなど特定の目的をもつネットワークが協働して対応し、これを行政のネットワークが側面から支援する体制が課題解決に有効であることが示唆されるケースを複数得た。

A. 目的

高齢者が住み慣れた地域でいきいきと暮らし、人生を全うするためには、制度・政策面からの支援のみではなく、住民の共助（NPO、ボランティア、近隣の関与）も重要な要素である。特に、一人暮らしや夫婦高齢者世帯が多い地域では、高齢者の生活不安を和らげるうえで、近隣を含めた地域が果たす役割は極めて大きい。

本研究では、こうした地域課題に対処すべく、地域における信頼・互酬性の規範・

ネットワークであるソーシャル・キャピタル（社会関係資本）の役割を検討し、住民の孤立を防ぐための具体策を提示することを目的としている。欧米では、ソーシャル・キャピタルが地域住民の健康と関連していることを指摘する論考が多数発表されている。特に、ソーシャル・キャピタルは住民の心の健康と密接な関係を持つことが指摘されているが、我が国における知見はまだ限られている。そこで、本調査では、まず我が国におけるソーシャル・キャピタ

ルの現状をマクロとミクロの両面から計測することから始めている。特に平成21年度は、平成20年度に長野県須坂市で実施した郵送法によるソーシャル・キャピタル調査の背景にある、住民のソーシャル・キャピタルを活用した具体的な活動実態をあきらかにするため、現地における調査員による聞き取り調査を実施した。

ロバート・パトナムは地域におけるソーシャル・キャピタルが健康に影響を与える経路として以下の3点を指摘している。

仮説1. コミュニティが結束していれば、金銭、病後の介護・移動などの社会的支援の提供が容易である。

仮説2. コミュニティが結束していれば、健康上の規範が強化される。孤立していると喫煙・飲酒・過食などに陥りやすい。

仮説3. コミュニティが結束していれば、質の高い医療サービスを確保しやすい。

平成21年度は、上記の3つの仮説の実証例を須坂市における聞き取り調査で明らかにすることを目的とした。

B. 方法

調査方法は、現地における調査員による聞き取り調査である。調査対象は市役所関係者5名、市議会関係者2名、NPO等関係者8名、中心市街地住民8名、その他5名（うち2名は非居住者）計28名、いずれも成人である。聞き取り調査期間は平成21年9月から2月である。聞き取りフォーマットは、前年度に須坂市で実施した「暮らしの安心・信頼・社会参加に関する調査」（N=601）の結果に基づき、地域における信頼・社会参加・地域での活動・生活満足度・利他的行動などについて、意見を求めた。具体的には1）他人への信頼、2）日常的なつきあいの状況、3）地域での活動状況、4）生活満足度を含む自分自身の生活について、5）寄付・募金活動について、ヒアリングした。また、とくに上記の

3つの仮説を裏付ける事例がないかを尋ねた。

C. 結果

ヒアリングからソーシャル・キャピタルに関連する活動として以下のような事例が得られた。

1) 現在全国で実施されている保健補導員制度発祥の地であり、現在も主婦が持ち回りで実施している。

2) 街並み保存のNPO活動（信州須坂町並みの会）が20年間にわたり存続（長野県では20年間存続したのは2か所のみ）。

3) 住民による助け合い推進運動が大々的に展開されている。

4) 街道に花を植えるボランティア活動が市内64団体参加で15年にわたり存続。

5) 市内の全小中高に青少年赤十字団の支部があるのは長野県下で須坂だけ。

6) 市内の地区すべて（69地区）で「助け合いマップ」を作成したのは全国で須坂市だけ。

7) 市民福祉アンケート調査では近所に困っている人が居るとき、「頼まれなくても関わる」人が25%。一方「頼まれたら関わる」が70%を超える¹。

8) 県立須坂病院産婦人科休診の事態に対して住民が結束して再開のための運動を展開。

9) 中心市街地の商店街は衰退したが、緊密な人間関係は維持されており、地域における子供の見守りなどを含め、安心・安全な住環境が維持されている。

10) 薬局で渡される「お薬手帳」を市域全体で統一したのは全国で2例目、NHKの全国放送で紹介される。

11) 児童の登下校見守りボランティアは1400名。

¹ 須坂市社会福祉協議会『助け合い起こし』p.130.

こうした活動が生まれ、持続している背景として、三木正夫須坂市長は、水害のある地域では防災のためもともと住民が協力し合っていたこと、良い水が少ないため住民が結束して水を大切にしていたこと、森林では入会地があり川下の人も上流の地域に入会地や森を持ち地域間の交流があったこと、江戸時代に統治していた堀家は外様で一万石ということから常に危機感があったため進取の気性に富んでいたこと、などを指摘している。

また、佐藤壽三郎須坂市会議長によれば、こうした利他的なとくに目下の者を引き立てることは従来からこの地域にある気質だという。

「こちらのほうはね、まつべる、まつばるといふんですね。これは見返り求めないんですよ。一番底にあるのはね。目をかけてやるという部分と、目をかけてもらうという部分は、もう地縁、血縁的な部分から始まってね、何しろこいつは見込みがあるぞとすると引き立ててくれるわけです。それは親類以上に引き立ててくれますよね。」

こうしてみると、須坂市における篤いソーシャル・キャピタルは歴史的・文化的背景が大きく影響しているように思われる。この点についてはより詳細な分析が必要であろうが、とりあえず健康に関連にして、須坂市におけるこれらの事例を上記のパッドナムの仮説に当てはめると以下になるろう。

仮説1. コミュニティが結束していれば、金銭、病後の介護・移動などの社会的支援の提供が容易である。

この例として、住民による助け合い起こしによるまちづくり運動が、あげられた。須坂市では、須坂市社会福祉協議会が、2002年度から2006年度までの5年間、国の指定をうけて「ふれあいのまちづくり事業」を実施した。この事業のなかで、住民流福祉

総合研究所の木原孝久所長の指導を得て、「助け合い起こし」によるまちづくり運動を実践している。2004年12月に発表された「助け合い起こし 須坂市地域福祉活動計画」の策定には、社会福祉協議会だけではなく、一般公募による市民代表9名、市内69の区の区長会、民生児童委員協議会、福祉施設、小規模作業所、ボランティアグループ、青年会議所、婦人会、保健補導員会、公民館、商工会議所、NPO法人、農協、郵便局、須坂新聞社、須坂市役所の代表など作業班を含めて51名が加わっている。計画策定のために研修・調査を含めれば34回の会合がもたれた。

また、ご近所の「助けあいマップ」²作成のための会合が27回開催された。マップづくりは地区の住民も参加しており計画策定の過程そのものが、市内に存在する大部分の組織の間にネットワークを形成する活動であったことがわかる。

この「助け合い起こし 須坂市地域福祉活動計画」の策定後、毎年「助け合い起こしによるまちづくり推進大会」が開催され、2010年も2月に第4回大会が開催された。この大会では、人に助けを求めること自体が勇気があることであるという認識から、助けた人だけではなく助けられた人を表彰する「助けられ大賞」を授与している。他人に助けを求めるという情報発信で住民間のネットワークが形成・強化されるということであるが、「助けられた」側を表彰するのは全国でも例がない。助け合い起こし運動は、まさに社会的支援のネットワークづくりと評価することができよう。また、この運動の過程で作成された「ご近所助け合いマップ」は市内で約800人存在している一人暮らしの老人への対応にも役だっている。

² 50～100世帯のご近所で、住民間の助け合いの関係を示すマップを作成するもの。住民流福祉総合研究所の木原孝久所長が提唱している手法。

るという。

こうしたユニークな運動が実現した要因として社会福祉協議会の会長の決断、それを支える事務方のまとめ役・推進役の存在があった点について複数のヒアリング先から指摘があった。また、こうした活動が可能になる背景として元来、地縁的なネットワークが強いとの指摘があった。

「多分、土台となるところに、昔の村組織じゃないけれども、須坂は自治会が69あって、大方は昔の農村部なわけなんですよね。区って称してるんですけども、区の行事というのがちゃんとしてるんだと思うんですよ。川掃除みんなで出てやるとか、その地区の神社のお祭りをみんなで出てやるとか、地区の廃品回収があるとか、育成会があるとか、そういうもとの自治会単位の活動とかね、つながりというのが強いんで、それに住んでると、町中にもお地蔵さんとかなんかがあればそのの氏子=その区を構成しているみたいなところがあったりとか、ベースにはきつとそういうところがある。」³

仮説2. コミュニティが結束していれば、健康上の規範が強化される。孤立していると喫煙・飲酒・過食などに陥りやすい。

この具体的事例として、保険補導員制度の普及とその支援組織の存在が挙げられた。

保健補導員の制度は現在全国に普及しているが、須坂はその発祥の地である。終戦直前の昭和20年4月、後に須坂町に合併される高甫村で、村人らが食糧不足、過労、寄生虫、伝染病、母乳不足などの対応に追われる保健婦の活動に対する協力申し入れを受けて作られた。婦人会のメンバーが15名任期2年で保健婦活動へ協力した。その後、隣接の井上村、日野村、豊洲村でも同

様の活動が生まれ、これらの自治体が須坂町との合併の際、合併の条件として市全域に補導員制度の設置を申し入れ、昭和33年4月に須坂市全域に保健補導員制度が設置された。

この保健補導員会は2年毎に各地区から持ち回りで委員がでて、保健活動にかんする研修を受ける。当初は須坂市全体で154名の補導員を任命して始まったが、現在では毎期280名で実施しており、保健補導員の体験者が50年で6150人を超えている。須坂市の青木健康づくり課長はその活動を次のように評価している。

「保健補導員会自身は2年任期でやってるんですよ。行政側の位置づけは、保健補導員の人が、まず健康について学習してもらうこと、補導員さん自身が学習を深めたりとか知識を得ることによって、自分の家族へ伝播していくということで、酒飲んじゃ駄目じゃないのとか、たばこは吸わない方がいいよとか、味噌汁は今日からしょっぱくしないよというようなことをまず自分の家族でやってもらおうと。まず自分が知って家族。で、公会堂行ってみたらたばこみんな吸ってると。うちの町の公会堂は禁煙にしましょうよとかね、そういうふうに少しずつ地域の中でも広がっていったり、市で今健診やってるからみんな受けましょうよとかね、それで広がっていくと。基本は補導員さん本人が一定の知識を持っていたとことです。」⁴

この制度は高甫村の保健婦大峽美代志氏の活動をみた村民がみずから協力を申し出て発足したものという。「言い伝えによると、昔合併する前、高甫村の保健師の大峽さんという人が、子どもの病気だとか寄生虫だとかということを、一生懸命、母子の保険だとかね、妊婦さんの面倒見るとかそういうのでひとりで走り回ってたのを見

³ 平成21年11月10日須坂市健康づくり課長青木信一郎氏。

⁴ 平成21年11月10日須坂市健康づくり課長青木信一郎氏。

て、そういう衛生の部分で広げることができるんだったら私たちもやるよっていう周りがいたということからスタートしたということなんで。」

制度発足当初の事情について、保健補導員40周年記念座談会では次のようなやり取りが採録されている。

「大峽氏 全市的になったのは昭和33年頃だが、この芽生えは戦争中の19~20年頃にあった。伝染病、寄生虫など死者が出て今（筆者注：平成8年）の東南アジアみたいだ。お国や人のためにひたすら仕事に打ち込んだ。保健婦が一生懸命やっているので手伝ってやろう。この精神が保健補導員会のバックボーンであった。頼まれてやったのと違い、この精神は忘れないで欲しい。

和久井氏（元須坂市保健衛生課長） 当時の大峽さんは若かったし、やる気満々で恐ろしかった。仁礼言葉で「エサ、オメサン、ソジャネエカナ」何とも言えない親しみと圧力さえ感じた。」⁵

山裾の村の住民と保健師のネットワークから始まったが、その後、須坂市全域に広がり、OGを含めれば6000人を超える人々がこの制度を介してつながることになった。大峽氏という活動の核になるキーパーソンを得たことも重要であるがそれに応えた村民のネットワークも大きな役割を果たしたように思われる。

仮説3. コミュニティが結束していれば、質の高い医療サービスを確保しやすい。

この例として、県立須坂病院の産婦人科（分娩）休診について長野県に対して陳情の署名活動を実施し、2年後に再開させた住民運動（地域で安心して子供を産み育てることができることを望む会）があげられる。

この住民運動は、県立須坂病院の産婦人科の分娩が2名の産婦人科医のうち1名が

怪我をして分娩の対応が残った1名の医師に集中することとなったため、2008年4月より分娩への対応を休止すると、2007年8月27日の発表を受けて始まった。母親たちが中心となり、9月5日には「地域で安心して子供を産み育てることができることを望む会」を立ち上げ、わずか3週間で33,985筆の署名を集め、さらに2007年10月29日までの2か月弱の「またたく間に」（齊藤博県立須坂病院院長談）57,009筆の署名を集め、県知事には大きな圧力を与えた。その後、2008年4月からは須坂病院の産婦人科は外来のみとなり受診者が激減したが、2008年11月、県立須坂病院に新たに2名の産婦人科医師が赴任し2009年3月から分娩への対応を再開した。2009年4月からさらにもう1名産婦人科医が加わり、産婦人科は医師4名体制となり、分娩への対応を休止する以前よりもむしろ増員された。

この「望む会」の中心人物である倉石智恵美氏は、子どもの通う保育園の母親たちのつながりから1996年から自宅を開放して母親たちの子育てサロンを開いており、2002年にNPO法人「へそのお」となった。サロンは毎日のように、倉石氏の自宅で開催され、子育て中の母親であふれかえっていたという。⁶このサロンでは、参加者のニーズに応じて「双子の会」、「ウルトラの会」（発達障害をもつお子さんの母親の会）、「アレルギーの会」などが立ち上がり、それぞれ悩みを抱える母親たちが参加していた。「地域で安心して子供を産み育てることができることを望む会」はこの「NPO法人へそのお」のネットワークが役立ったという。ただ、倉石氏は同時に「望む会」には「へそのお」だけではなく、社会福祉協議会、須坂市保険補導員会、など「へそのお」も含めて8団体を「望む会」の発起

⁵ 須坂市保健補導員会（2008）pp.88-89.

⁶ 2010年2月20日松田かよ氏からのヒアリング。

人とし、これら8団体のネットワークで署名を集めた。

また、「望む会」の設立にあたってはメディア向けに記者会見を設定し、陳情活動についての住民の認知度を高めるようにした。加えて、「へそのお」の参加者を中心に母親たちが土日に公園やハイウェイオアシスに出向いて署名活動を行った。

倉石氏は行政にもネットワークをもち署名活動には、須坂市長、小布施町長、高山村長も名を連ね、支援した。これは署名活動の信頼性を高めるのに役立ったという。三木須坂市長はたびたび「へそのお」を訪問し、ざっくばらんに対話し、倉石氏によれば「三木市長は低姿勢な方で、隣のおじさん、お父さんみたい人」で「市長のおかげで行政との距離が近くなった」という。

住民運動は須坂市、小布施町、高山村の人口の8割近くが署名するものとなったが、県立須坂病院の産婦人科での分娩は2008年4月から休止となり、運動に参加した母親たちの間には挫折感が漂った時期もあったとのことであるが、「望む会」は4月以降も勉強会などを開催して活動していたが、2008年後半、休止した。しかし、齊藤博県立須坂病院長によれば、「望む会」の運動は村井長野県知事の政治的なスタンスにもマッチするもので産婦人科での分娩再開のため県も動いた。また当初は、産科の医師不足問題への対応のため発足した会であったが、問題はお産だけではないことを住民自身がこの活動を通じて認識していったことが大きいと齊藤院長は指摘している。県立須坂病院では内科医の減少にも直面しており、この主婦たちの運動の後、県庁に医師確保室が設けられた。齊藤院長によれば「住民運動を見ていると我々も死ぬ気でやらないと思わされた。」とのことであった。この運動の中心となって活動した倉石氏は「須坂は大きな家族のようなもの、困った時は助け

てもらえる所」と述べている。

D. 考察

1 住民間のネットワークを起動させるキーパーソンの存在

助け合い起こし運動、保健補導員、地域で安心して子供を産み育てることができることを望む会、いずれのケースも活動を始めるにあたって中心的役割を担うキーパーソンが存在していた。保健補導員の場合は高甫村の保健婦、助け合い起こしでは社会福祉協議会の職員、「望む会」では子育てサロンを主宰していた主婦がそれぞれの活動で八面六臂の活躍をした。いずれも肩書きはない現状に精通している女性である。

子育てサロンを主宰された主婦は飯山から須坂に嫁いで来られた方だが、豪放磊落、大変前向きな方で、一緒に活動された主婦は彼女のことを「肝玉母さんのような人」と評していた。

地域の絆という意味でのソーシャル・キャピタルの形成にはこうした現場の事情に精通し、利他的な活動をいとわないうリーダーシップを持つキーパーソン「世話焼き」の存在がある。

ただこうしたキーパーソンも単独での活動ではその影響力も限られている。これらのキーパーソンはいずれも地域でのネットワークづくりにも長けていた。保健補導員の場合は他の主婦が保健婦に協力を申し入れネットワークが形成された。助け起こしでは社会福祉協議会のネットワークがあった。「望む会」では元々、子育てサロン活動による母親達のネットワークが存在していた。上記の3つのケースではキーパーソンが単なる世話焼きで終わらず独自のネットワークを形成する能力があったことが重要である。

2 地縁的ネットワーク、NPO、行政の協働

須坂市における3つのケースでは自治会、

商工会といった地縁的団体と目的別に設立されているNPOが共同して各課題に取り組み、これを行政が後押しする形をとり地縁的ネットワークとNPOのネットワーク、行政のネットワークが協働している。保健補導員のケースでは高甫村という山すその村で住民が孤軍奮闘している保健婦に自主的に協力を申し出たのが始まりであった。地縁的な活動ではあるが保健という目的が明確であり今で言うNPO活動でもあった。更に住民の協力申し入れを行政が受けて、行政がバックアップする形で保健補導員制度が確立した。地縁・NPO・行政の協働といえる。

助け合い起こしでも従来中心となって活動していた社会福祉協議会がコーディネーターとなって地縁団体とNPOの両方をメンバーとする助け合い推進会議を作っている。

「望む会」も母体は「へそのお」というNPOであるが地縁団体も行政を含めた大きなネットワークを形成している。

本稿で取り上げた3つのケースはいずれもNPO的な目的が明確な活動と地縁団体の活動が融合し、それを行政が側面から支援している形態をとっている。

E. 結論

平成21年度は、ソーシャル・キャピタルの具体的な実態を明らかにするため須坂市民へのヒアリング調査を実施した。ヒアリング調査の結果、須坂市では住民間のネットワークを利用した協調的な活動が多くみられることが明らかになった。これらの活動には利他的な行動をいとわないキーパーソンが存在するが、同時にそれを支える住民同士の協調的なネットワークももともと存在することが示唆されるケースを複数得た。

上記の聞きとり調査から明らかのように、助け合いおこしによるまちづくりの場合も、保健補導員の場合も、「望む会」の場合も

それぞれ異なる複数の「世話焼きさん」が存在し、彼女らが既存のネットワークと調和して活動しているのは他地域に見られない現象のように思われる。

しかし、こうした活動が須坂市民の健康に具体的に結びついているのかは今後の研究課題である。

F. 引用文献

- 1) 社会福祉法人須坂市社会福祉協議会 (編) (2004) 『助け合い起こし 須坂市地域福祉活動計画』社会福祉法人須坂市社会福祉協議会
- 2) 長野県須坂市保健補導員会 (編) (2008) 『須坂市保健補導員会 50年のあゆみ 市民の健康をねがって』、長野県須坂市保健補導員会。
- 3) Putnam, R (2000) *Bowling Alone*, Simon and Schuster. (邦訳 柴内康文訳 『孤独なボウリング 米国コミュニティの崩壊と再生』 柏書房) .
- 4) 助け合い推進会議・社会福祉法人須坂市社会福祉協議会 (編) (2008) 『“啓発” から“実践” へ第2次 須坂市地域福祉活動『助け合い起こし』』.

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 稲葉陽二・藤原佳典、少子高齢化時代におけるソーシャル・キャピタルの政策的意義—高齢者医療費の視点からの試論、『行動計量学』査読付き、日本行動計量学会、2010 (印刷中)

2. 学会発表

- 稲葉 陽二. 少子高齢化時代におけるソーシャル・キャピタルの政策的意義—高齢者医療費の視点からの試論. 社会政策学会第119大会. 2009年11月1日

H. 知的所有権の取得状況 なし

【研究協力者】

研究協力者 佐藤群将 (日本大学法学部大学院・政治学専攻)、緒方淳子、田中葵

Ⅲ 資料



シニア世代の 安全・安心な暮らしに関する調査

- ・回答は、必ずあて名の方ご本人がご記入ください。
- ・お答えは、大部分、あてはまるものの番号に○をつけていただく形式です。
- ・ご回答はすべて個人のお名前と切り離して統計的に処理しますので、内容が外部にもれることは決してありません。
- ・ご記入が終わりましたら、同封の封筒に入れ、ご投函下さい。
- ・ご不明な点等ございましたら、下記までお問い合わせください

和光市長寿あんしん課介護福祉担当

電話：048-424-9125（直通）

048-464-1111（代表）

2008（平成20）年度調査

和光市長寿あんしん課

＜協力＞ 東京都老人総合研究所

社会参加とヘルスプロモーション研究チーム

記入日	平成20年（ ）月（ ）日
記入方法 (1つに○)	<ol style="list-style-type: none"> あて名の方ご本人が記入 あて名の方ご本人の回答を家族が代筆 あて名の方ご本人は入院・入所中である 心身の状況が悪く、あて名の方ご本人は、調査に回答できない

次ページ以降は回答せずそのままお戻し下さい

それぞれ、当てはまる番号に○をつけて下さい。

●現在の健康状態●

問1. あなたはふだんご自分で健康だと思いますか。

次の1～4の中から、あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

1. とても健康だ 2. まあ健康な方だ 3. あまり健康でない 4. 健康ではない

問2. あなたの日常の活動性についてお答えをお願いします。以下の質問ごとに、「はい」「いいえ」または「いいえ」でお答え下さい。(1つずつ○)

記入にあたっては、(1)～(6)・(12)は、やろうと思えばできる場合→「はい」に○

(7)～(11)・(13)は、自覚しない場合→「いいえ」に○をお願いします

(1) バスや電車を使って一人で外出できますか	1. はい	2. いいえ
(2) 日用品の買い物ができますか	1. はい	2. いいえ
(3) 自分で食卓の用意ができますか	1. はい	2. いいえ
(4) 請求書の支払いができますか	1. はい	2. いいえ
(5) 銀行預金、郵便貯金の出し入れが自分でできますか	1. はい	2. いいえ
(6) 年金などの書類がかけますか	1. はい	2. いいえ
(7) 新聞を読んでいますか	1. はい	2. いいえ
(8) 本や雑誌を読んでいますか	1. はい	2. いいえ
(9) 健康についての記事や番組に関心がありますか	1. はい	2. いいえ
(10) 友達の家を訪ねることがありますか	1. はい	2. いいえ
(11) 家族や友達との相談にのることはありますか	1. はい	2. いいえ
(12) 病人を見舞うことはできますか	1. はい	2. いいえ
(13) 若い人に自分から話しかけることはありますか	1. はい	2. いいえ

問3. あなたの日常の移動能力は、次のどれにあてはまりますか。

(※普段行っていないなくても、行える能力がある番号に1つだけ○)

- 自転車、車、バス、電車を使ってひとりで外出できる
- 家内および隣近所では、ほぼ不自由なく動き活動できるが、ひとりで遠出はできない
- 少しは動ける（庭先に出てみる、小鳥の世話をする、簡単な買い物などをする程度）
- 起きてはいるが、あまり動けない（床から離れている時間が多い）
- 寝たきり（床は常時敷いてあり、トイレ・食事はは起きる）
- 寝たきり

●外出や社会活動について●

問4. ふたん、買い物、散歩、通院などで外出する頻度はどれくらいですか。次の中から、あてはまるものを1つお答え下さい。(Oは1つ)

- | | | |
|-----------|--------------|--------------|
| 1. 毎日2回以上 | 3. 2～3日に1回程度 | 5. ほとんど外出しない |
| 2. 毎日1回 | 4. 1週間に1回程度 | |

問5. あなたは、次の(1)～(6)のようなグループや団体に入っていますか。入っている場合は、この1年間に、そのグループ・団体の活動にどのくらい参加したかをお答え下さい。

(1) 町内会や自治会に入っていますか。(Oは1つ)

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1. 入っていない | 3. 年に1～11回活動に参加 |
| 2. 入っているが、この1年間は活動に参加せず | 4. 年に12回以上(月1回以上)活動に参加 |

(2) 老人会、老人(高齢者)クラブに入っていますか。(Oは1つ)

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1. 入っていない | 3. 年に1～11回活動に参加 |
| 2. 入っているが、この1年間は活動に参加せず | 4. 年に12回以上(月1回以上)活動に参加 |

(3) 趣味・スポーツ・学習のサークルや団体に入っていますか。(Oは1つ)

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1. 入っていない | 3. 年に1～11回活動に参加 |
| 2. 入っているが、この1年間は活動に参加せず | 4. 年に12回以上(月1回以上)活動に参加 |

(4) ボランティア団体や市民活動団体・NPOに入っていますか。(Oは1つ)

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1. 入っていない | 3. 年に1～11回活動に参加 |
| 2. 入っているが、この1年間は活動に参加せず | 4. 年に12回以上(月1回以上)活動に参加 |

(5) 同窓会や退職者の会(親島のOB会など)に入っていますか。(Oは1つ)

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1. 入っていない | 3. 年に1～11回活動に参加 |
| 2. 入っているが、この1年間は活動に参加せず | 4. 年に12回以上(月1回以上)活動に参加 |

(6) その他のグループや団体(例: 政治団体、宗教関係の団体など)に入っていますか。(具体的に:) (Oは1つ)

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1. 入っていない | 3. 年に1～11回活動に参加 |
| 2. 入っているが、この1年間は活動に参加せず | 4. 年に12回以上(月1回以上)活動に参加 |

●ご家族について●

問6. あなたは、現在、配偶者はいらっしゃいますか。(Oは1つ)

- | | | | |
|--------------------|---------|---------|--------|
| 1. いる(内縁関係、事実婚を含む) | 2. 離別した | 3. 死別した | 4. いない |
|--------------------|---------|---------|--------|

問7. 現在、一緒に住んでいる(同じ敷地内に住んでいる)方は、あなただからみてどの様柄の方ですか。(あてはまるものすべてにO)

- | | | |
|---------------------------|----------|----------------|
| 1. 一人暮らし
(一緒に住んでいる人は別) | 2. 夫または妻 | 5. 子の配偶者(婿、嫁) |
| | 3. 息子 | 6. 孫 |
| | 4. 娘 | 7. その他(具体的に:) |

問7-1. 現在の一人暮らしをはじめから、およそどのくらいですか。(Oは1つ)

- | | | |
|------------|-------------|----------|
| 1. 5年未満 | 3. 10～20年未満 | 5. 40年以上 |
| 2. 5～10年未満 | 4. 20～40年未満 | |

[全員の方にお聞きします]

問8. あなたは、一緒に住んでいない(別居している)お父さんはいらっしゃいますか。いる場合は()内に人数を書いて下さい。

- | | | |
|-------|---------|--------|
| 1. いる | → () 人 | 2. いない |
|-------|---------|--------|

問8-1. 別居しているお父さんのなかで、最も近くに住んでいるお父さんのお宅は、あなたの自宅から、片道どのくらいの時間がかかりますか。(Oは1つ)

[注] よく使う交通手段でお答え下さい

- | | | | |
|----------|--------------|--------------|----------|
| 1. 10分未満 | 2. 10分～30分未満 | 3. 30分～1時間未満 | 4. 1時間以上 |
|----------|--------------|--------------|----------|

[全員の方にお聞きします]

●親族や友人・近隣とのつきあい●

問9. 別居のご家族や親戚と、会ったり、一緒に出かけたりすることはどのくらいありますか。(Oは1つ)

- | | | |
|-----------------|------------|--------------|
| 1. 週に6、7回(ほぼ毎日) | 4. 週に1回くらい | 7. 月に1回より少ない |
| 2. 週に4、5回 | 5. 月に2、3回 | 8. まったくない |
| 3. 週に2、3回 | 6. 月に1回くらい | |

問10. 別居のご家族や親戚と、電話で話すことはどのくらいありますか。電子メールやファックスでのやりとりも含みます。(Oは1つ)

- | | | |
|-----------------|------------|--------------|
| 1. 週に6、7回(ほぼ毎日) | 4. 週に1回くらい | 7. 月に1回より少ない |
| 2. 週に4、5回 | 5. 月に2、3回 | 8. まったくない |
| 3. 週に2、3回 | 6. 月に1回くらい | |

問 11. あなたは、別居のご家族や親戚の方とおつきあいに、どの程度満足されていますか。(Oは1つ)

1. とても満足 2. わりと満足 3. あまり満足していない 4. 満足していない
- 問 12. あなたには、心を打ち明けて、自分の困っていることや心配事を話すことができる親しい友人はいますか。いる場合、何人くらいいますか。(Oは1つ)
1. いない 2. 1人いる 3. 2~3人いる 4. 4~5人いる 5. 6人以上

問 13. あなたは、近所の人との程度おつきあいをされていますか。(Oは1つ)

1. お互いに訪問しあう人がある
2. 立ち話をする程度の人がある
3. あいざうをする程度の人がある
4. つきあいはない

問 13-1. 近所の人の中で、「お互いに訪問しあう人」と「立ち話をする程度の人」は、合わせて何人くらいいますか。(Oは1つ)

1. 1人 2. 2-3人 3. 4-5人 4. 6-9人 5. 10-19人 6. 20人以上

問 14. 友人やご近所の方と、会ったり、一緒に出かけたりすることはどのくらいありますか。(Oは1つ)

1. 週に6、7回(ほぼ毎日) 4. 週に1回くらい 7. 月に1回より少ない
2. 週に4、5回 5. 月に2、3回 8. まったくない
3. 週に2、3回 6. 月に1回くらい

問 15. 友人やご近所の方と、電話で話すことはどのくらいありますか。電子メールやファックスでのやりとりも含みます。(Oは1つ)

1. 週に6、7回(ほぼ毎日) 4. 週に1回くらい 7. 月に1回より少ない
2. 週に4、5回 5. 月に2、3回 8. まったくない
3. 週に2、3回 6. 月に1回くらい

問 16. あなたは、友人やご近所の方とおつきあいに、どの程度満足されていますか。(Oは1つ)

1. とても満足 2. わりと満足 3. あまり満足していない 4. 満足していない

問 17. 同居・別居のご家族や親戚の中に、次のような方はいますか。(1つずつO)

(1) あなたの心配事や悩み事を聞いてくれる人	1. いる	2. いない	3. 必要ない
(2) あなたに気を配ったり、思いやりたりしてくれる人	1. いる	2. いない	3. 必要ない
(3) ちょっとした用事や留守番を頼める人	1. いる	2. いない	3. 必要ない
(4) あなたが病気で2~3日間寝込んだ時に、看病や世話をしてくれる人	1. いる	2. いない	3. 必要ない
(5) あなたが病気で長期寝込んだ時に、看病したり、家のことを手伝ってくれる人	1. いる	2. いない	3. 必要ない
(6) 緊急の事態が起きた時に、きてくれそうな人	1. いる	2. いない	3. 必要ない

問 18. では、友人・知人やご近所の方の中に、次のような方はいますか。(1つずつO)

(1) あなたの心配事や悩み事を聞いてくれる人	1. いる	2. いない	3. 必要ない
(2) あなたに気を配ったり、思いやりたりしてくれる人	1. いる	2. いない	3. 必要ない
(3) ちょっとした用事や留守番を頼める人	1. いる	2. いない	3. 必要ない
(4) あなたが病気で2~3日間寝込んだ時に、看病や世話をしてくれる人	1. いる	2. いない	3. 必要ない
(5) あなたが病気で長期寝込んだ時に、看病したり、家のことを手伝ってくれる人	1. いる	2. いない	3. 必要ない
(6) 緊急の事態が起きた時に、きてくれそうな人	1. いる	2. いない	3. 必要ない

問 19. あなたは、まわりの人から孤立していると感じることがどのくらいありますか。(Oは1つ)

1. ほとんどない 2. あまりない 3. ときどきある 4. よくある

問 20. あなたは、次のように感じることがありますか。(1つずつO)

	はい	いいえ
(1) ひとりになっても孤独を楽しめるほうですか	1	2
(2) 大勢で楽しめるような趣味や活動はしたいですか	1	2
(3) 人間関係の煩わしさを避けて、静かに過ごしたいですか	1	2
(4) 人と一緒に何かをしたいと思いますか	1	2
(5) ご自分が他の人に必要とされていると感じることができる場がありますか	1	2
(6) あなたには、ほっとしたり、安らげる場がありますか	1	2

問 21. あなたは、世間一般の人は信頼できると思いますが、それとも、常に用心した方がよいと思いませんか。あなたの考え方に近いと思うレベルの数値を1つ選び、その数字にOをつけてください。(Oは1つ)

信頼できると思う	両者の中間					常に用心した方がよい	
←	1	2	3	4	5	6	7 →

問 22. あなたの近隣に住む人々は信頼できると思いますが、それとも、常に用心した方がよいと思いませんか。あなたの考え方に近いと思うレベルの数値を1つ選び、その数字にOをつけてください。(Oは1つ)

信頼できると思う	両者の中間					常に用心した方がよい	
←	1	2	3	4	5	6	7 →

問 23. 次の質問について、「そう思う」「どちらかという」とそう思う」「どちらかという」ともいえない」「どちらかという」とそう思わない」「そう思わない」「そう思わない」でお答えください。

(1) 私の住んでいる地区はとても安全である (○は1つ)

1. そう思う	3. どちらともいえない	4. どちらかという	とそう思わない
2. どちらかという	とそう思う	5. そう思わない	

(2) 私の近所の誰かが助けを必要としたときに、近所の人たちは手をさしのべることをいとわない (○は1つ)

1. そう思う	3. どちらともいえない	4. どちらかという	とそう思わない
2. どちらかという	とそう思う	5. そう思わない	

(3) 私の近所には誰かが家を留守にしたときに、その家のことを気軽に世話してくれる雰囲気がある (○は1つ)

1. そう思う	3. どちらともいえない	4. どちらかという	とそう思わない
2. どちらかという	とそう思う	5. そう思わない	

(4) 急病の時など、すぐにかかれる医療機関があって安心できる地域である (○は1つ)

1. そう思う	3. どちらともいえない	4. どちらかという	とそう思わない
2. どちらかという	とそう思う	5. そう思わない	

(5) 私の地域では、お互いに気軽に挨拶を交し合う (○は1つ)

1. そう思う	3. どちらともいえない	4. どちらかという	とそう思わない
2. どちらかという	とそう思う	5. そう思わない	

(6) 将来もすすんでいる地域に住みたい (○は1つ)

1. そう思う	3. どちらともいえない	4. どちらかという	とそう思わない
2. どちらかという	とそう思う	5. そう思わない	

問 24. ご自宅周辺の環境として、次のことがらはどのくらいあてはまりますか。

(1つずつ○)

	よくあてはまる	まああてはまる	あまりあてはまる	全くあてはまらない
(1) バスや電車などの交通の便が悪い	1	2	3	4
(2) 道端に階段、段差、傾斜があったり、歩道が狭い	1	2	3	4
(3) 交通量が多い	1	2	3	4
(4) 周知や案内表示が少ない、わかりにくい	1	2	3	4
(5) 公園や公共施設のトイレが少ない、使いにくい	1	2	3	4
(6) ベンチやイスなどの休める場所が少ない	1	2	3	4

問 25. 日常生活の問題や心配事があるとき、次の組織・団体はどのくらい頼りになると感じますか。(1つずつ○)

	大いに頼りになる	大いに頼りになる	ある程度頼りになる	どちらともいえない	どちらともいえない	あまり頼りにならない	全く頼りにならない
(1) 市役所等の公的機関	1	2	3	4	5		
(2) 町会・自治会等の地域団体	1	2	3	4	5		
(3) ボランティア、NPO、市民活動団体	1	2	3	4	5		

問 26. あなたは、今後の生活について、次のようなことでどのくらい不安がありますか。

(1つずつ○)

	大いに不安がある	大いに不安がある	やや不安がある	あまり不安はない	不安はない
(1) 泥濘に入られる、詐欺にあうなど、犯罪に巻き込まれること	1	2	3	4	
(2) 急な具合が悪くなった、けがをして動けないときに、助けを呼べないこと	1	2	3	4	
(3) 地震・台風などの災害にあうこと	1	2	3	4	
(4) 生活費、医療費、介護費用がかさむこと	1	2	3	4	
(5) 住むところがなくなること	1	2	3	4	
(6) 介護が必要になったとき、十分な介護サービスが受けられないこと	1	2	3	4	
(7) 友達や知り合いが少なくなること	1	2	3	4	
(8) 体の状態が悪くなった、認知症になること	1	2	3	4	
(9) 寝たきりになったり認知症になったりして、家族や周りの人に迷惑をかけること	1	2	3	4	

●行政の制度・施策●

問 27. あなたは、災害時などの地域避難場所をご存じですか。(○は1つ)

1. どこにあるか知っている (避難場所への行きかたをきちんと知っている)	
2. 名称は知っているがどこかは知らない (避難場所への行きかたまではきちんと知らない)	
3. 知らない	

問 28. あなたは、和光市の「高齢者見守りシステム」をご存じですか。(○は1つ)

1. 利用している	2. 知っているが使っていない	3. 知らない
-----------	-----------------	---------

問 29. あなたは、和光市の「緊急通報システム」をご存じですか。(○は1つ)

1. 利用している	2. 知っているが使っていない	3. 知らない
-----------	-----------------	---------

問 30. 次の自立支援サービス（保健福祉サービス）のうち、あなたが利用してみたいと思うものはどれですか。（〇はいくつでも）

- | | | |
|-----------------|------------------|---------------|
| 1. 介護予防ヘルプ・生活援助 | 4. 住宅改修費助成 | 7. その他（ |
| 2. 配食サービス | 5. 福祉施設の紹介 | 8. 利用したいものはない |
| 3. 地域送迎サービス | 6. おむつ等購入費支給サービス | |

問 31. 市が実施している介護・福祉サービスや生活支援のサービスについて、もっと詳しく知りたいと思ったときに、相談できる人やご存じの相談窓口がありますか。

- | | |
|-------|-----------------------|
| 1. ある | 2. ない（難に相談してよいかかわらない） |
|-------|-----------------------|

問 31-1. これらのサービスについて、あなたが気軽に相談できる人や機関はどれですか。（〇はいくつでも）

- | | |
|---------------|---------------------------------------|
| 1. 家族・親戚 | 7. 地域包括支援センター |
| 2. 友人・知人・近所の人 | 8. その他の機関（社会福祉協議会など） |
| 3. 市役所の窓口 | 9. その他の専門機関（ソーシャルワーカー、介護職、ケアマネージャーなど） |
| 4. 医師・看護師・病院 | 10. その他（ |
| 5. 保健師・保健センター | 11. 気軽に相談できる人や機関はない |
| 6. 民生委員 | |

問 32. あなたは「地域包括支援センター」についてどの程度ご存じですか。（1つずつ〇）

(1) 地域包括支援センターという施設名

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. 聞いたことがある | 2. 聞いたことがない |
|-------------|-------------|

(2) 地域包括支援センターの場所

- | | |
|---------------------|----------|
| 1. 行ったことがある | 3. わからない |
| 2. 行ったことはないがどこかはわかる | |

(3) 地域包括支援センターの役割や機能

- | | | |
|------------|------------|---------|
| 1. よく知っている | 2. 多少知っている | 3. 知らない |
|------------|------------|---------|

問 33. 次の事業のうち、あなたが参加してみたいと思うものはどれですか。（〇はいくつでも）

- | |
|---|
| 1. 運動機能向上（運動や転倒予防プログラムなど） |
| 2. 口腔機能向上（歯の手入れや指導など） |
| 3. 食の自立支援改修（栄養士による指導や料理教室など） |
| 4. あくていびいてい等地域支援事業（アミューズメントカジノ・うえるかむ事業） |
| 5. その他（やってみたいことなど： |
| 6. 参加したいものはない |

問 34. あなたが介護・福祉関係の情報源として、ふだんよく利用しているものはどれですか。（〇はいくつでも）

- | | | |
|--------|-------------|---------------------|
| 1. 新聞 | 6. 県の広報紙 | 11. うちつミ（家族や友人知人の会） |
| 2. 雑誌 | 7. 和光市の広報紙 | 12. その他 |
| 3. 図冊 | 8. 回覧版 | （具体的に： |
| 4. テレビ | 9. インターネット | 13. 利用する必要がない |
| 5. ラジオ | 10. メールマガジン | 14. 利用しているものはない |

問 35. 次のそれぞれについて、この1週間のことを考えながら、「はい」「いいえ」でお答えください。（1つずつ〇）

(1) 自分の生活に満足していますか	1. はい	2. いいえ
(2) これまでやってきたことや、興味のあったことの多くを、最近やめてしまいましたか	1. はい	2. いいえ
(3) 自分の人生は苦しいものと感じますか	1. はい	2. いいえ
(4) 退屈だと感じるものが、よくありますか	1. はい	2. いいえ
(5) ふだんは、気分のよいほうですか	1. はい	2. いいえ
(6) 自分に何か悪いことが起るかもしれない、という不安がありますか	1. はい	2. いいえ
(7) あなたはいつも幸せと感じていますか	1. はい	2. いいえ
(8) 自分が無力だと感じるものがよくありますか	1. はい	2. いいえ
(9) 外に出て新しい物事をするより、家の中にいる方が好きですか	1. はい	2. いいえ
(10) 他の人に比べ、記憶力が落ちたと感じますか	1. はい	2. いいえ
(11) いま生きていることは、すばらしいことと思えますか	1. はい	2. いいえ
(12) 自分の現在の状態は、まったく価値のないものと感じますか	1. はい	2. いいえ
(13) 自分は、活力に満ちあふれていると感じますか	1. はい	2. いいえ
(14) 今の自分の状況は、希望のないものと感じますか	1. はい	2. いいえ
(15) 他の人はあなたより、恵まれた生活をしていると思いますか	1. はい	2. いいえ

最後に、あなたご自身の基本属性についておたずねします。回答者の属性によって、ご意見や活動の状況がどのように異なるかを統計的に分析するために必要な情報となりますので、何卒ご理解ください。ご回答は、個人のお名前と切り離してコンピュータで処理しますので、個人の情報が外部にもれることは絶対にありません。

問 36. あなたの性別を教えてください。

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問 37. あなたは何年何月生まれ、満何歳ですか。元号には〇をつけて下さい。

- | | | | | | |
|-------|---|---|-----|---|---|
| 1. 明治 | 年 | 月 | 生まれ | 満 | 歳 |
| 2. 大正 | | | | | |
| 3. 昭和 | | | | | |
- （何日生まれかはご記入不要です）

（次のページにお進みください）

問 38. あなたは、現在、収入を伴う仕事（パート・アルバイト、家業の手伝いを含む）をしていますか。(Oは1つ)

1. 週に35時間以上働いている
2. 短時間(週35時間未満)、または不定期に働いている
3. 仕事はしていない、引退した

問 39. あなたは、これまでに、収入を伴う仕事(パート・アルバイト、家業の手伝いを含む)には合計で何年くらい就きましたか(現在の年齢までに働いた年数の合計)。(Oは1つ)

1. 5年未満
2. 5年以上10年未満
3. 10年以上20年未満
4. 20年以上30年未満
5. 30年以上
6. 仕事に就いたことはない → 問41へ

問 40. あなたが、これまでにもっとも長く就いていた仕事(パート・アルバイト、家業の手伝いを含む)は次のどれにあたりますか。現在の仕事の有無に関わらずお答えください。(1~10に1つだけO)

自営の仕事	雇われている・いた方	団体等役員、その他
1. 自営業主、自営業	3. 正規職員・正規従業員	8. 会社・団体などの役員
2. 家族従業員(家業などの手伝い)	4. パート・アルバイト	9. 家庭での内職
	5. 嘱託	10. その他(1~9以外)
	6. 人材派遣企業の派遣社員	(具体的に)
	7. その他の雇用者	

< 全員お答えください >

問 41. あなたが最後に卒業した学校はどちらですか。(Oは1つ)

1. 学校には行かなかった
2. 専修小学校・新制小学校
3. 旧制高等小学校・新制中学校
4. 旧制中学校・新制高等学校
5. 旧制専門学校・短期大学
6. 大学
7. 大学院
8. その他(最終卒業学校名:)

問 42. 延べの通学年数は何年になりますか。 年

問 43. あなたの収入(税込み)は、昨年1年間でおよそどのくらいでしたか。配偶者がいらっしゃる方は、ご夫婦合わせた年収をお答えください。年金や仕送りなどによる収入も含みます。(Oは1つ)

1. 120万円未満
2. 120~180万円未満
3. 180~300万円未満
4. 300~500万円未満
5. 500~1,000万円未満
6. 1,000万円以上
7. 答えたくない

問 44. あなたの世帯の、今の暮らし向きはいかがですか。(Oは1つ)

1. 非常にゆとりがある
2. ややゆとりがある
3. どちらともいえない
4. やや苦労している
5. 非常に苦労している

問 45. 今後、もし、今よりも雇員状態が悪くなった時に、どのような暮らし方を希望していますか。あなたの意見にもっとも近いものを1つお答え下さい。(Oは1つ)

1. 今のまま一人暮らしを続けたい
2. 子どもや親戚の家の近くに転居したい
3. 子どもや親戚の家に転居し、一緒に暮らしたい
4. 子どもや親戚を呼び寄せ、現在の家で一緒に暮らしたい
5. 介護施設や有料老人ホームなどに入りたい
6. その他(具体的に)

問 46. 現在のお住まいは、次のどれにあたりますか。(Oは1つ)

1. 一戸建て持ち家
2. 一戸建て借家
3. 分譲マンション
4. 賃貸マンション・アパート
5. 公営住宅(賃貸)
6. 公社、公団(賃貸)
7. 社宅、寮、官舎
8. その他(具体的に:)

Oの付け忘れ注意!

<3~8> 集合住宅にお住まいの方は

問 46-1. あなたが今お住まいになっているのは、何階建ての同階ですか。

階建ての 階

問 46-2. あなたがお住まいの建物には、エレベーターがありますか。

1. ある 2. ない

< 全員お答えください >

問 47. 現在の市にお住まいになってから、何年になりますか。(Oは1つ)

1. 1年未満
2. 1年以上~3年未満
3. 3年以上~5年未満
4. 5年以上~10年未満
5. 10年以上~20年未満
6. 20年以上~30年未満
7. 30年以上~50年未満
8. 50年以上~60年未満
9. 60年以上

お手数ですが、記入漏れがないか、今一度お確かめください

<ご意見欄>

調査のご感想や、シニア世代の安全・安心な暮らしに関することなど、自由にお書きください。

資料B 多摩区調査票

B1

シニア世代のすこやか・安心な暮らしに関する調査

2009年
東京府健康長寿センター 研究員
社会参加と地域健康研究チーム
(協力) 多摩区保健福祉センター

(ご記入にあたってのお願い)

- ・ 回答は、必ず活動に参加されている方ご本人にご記入ください。
- ・ お答えは、大抵、あてはまるものの番号に○をつけていただく形式です。
- ・ 質問して同じような内容の質問にご回答いただくような箇所もございますがご了承ください。すべての質問にお答えいただければ幸いです。
- ・ ご回答はすべて個人のお名前と切り離して統計的に処理しますので、内容が外部にもれることは決してありません。また、お名前・連絡先も外部にもれることのないよう管理しております。
- ・ ご不明な点等ございましたら、下記までお問い合わせください：

東京都保健福祉センター 研究員 社会参加と地域健康研究チーム
電話 03-3964-3241 担当：田原(内線3016)、西(3123)
電子メール：sanka@tmig.or.jp

問1. あなたが「みんなの公園体操やいさい体操」のなかで、主に参加されているのは、次のどの場所ですか。(○はいくつでも)

- 1. 0人(いない) 2. 1人くらい 3. 2~3人くらい
- 4. 4~5人くらい 5. 6~9人くらい 6. 10人以上

問2. あなたは、この3ヶ月くらい間で、「みんなの公園体操やいさい体操」には、どのくらいの頻度で参加されていましたか。(○は1つ)

- 1. 週に2日以上 2. 週に1日(月に4, 5日) 3. 月に2, 3日
- 4. 月に1日程 5. 月に1日未満 6. この3ヶ月間は活動していません

問3. あなたが「みんなの公園体操やいさい体操」を始めたのは、およそどのくらい前ですか。(○は1つ)

- 1. 3ヶ月未満 2. 3ヶ月~半年くらい前 3. 半年~1年くらい前
- 4. 1年~1年半くらい前 5. 1年半~2年くらい前 6. 2年以上前

- 1 -

問8. これまでの活動を振り返って、「みんなの公園体操やいさい体操」をやってみてよかったと思うことはどのようなことですか。(1)~(6)それぞれがどの程度あてはまるかをお答えください。(1つずつ○)

	よくあてはまる	まああてはまる	あまりあてはまる	ほとんどあてはまる
(1) 自分の目標となるイベントができた	1	2	3	4
(2) 自分の健康や体力が維持・向上に役立った	1	2	3	4
(3) 生きがいや充実感を得られた	1	2	3	4
(4) 活動を通して、新しい友人を得られた	1	2	3	4
(5) 新しいものや方法を学んだり、視野が広がった	1	2	3	4
(6) 活動している間は、自分が抱えている困難な問題を忘れられることができた	1	2	3	4
(7) 様々な人と会ったり話したりする機会が増えた	1	2	3	4

問9. 「みんなの公園体操やいさい体操」に参加することについて、あなたはどのように感じていますか。(1つずつ○)

	とてもそう思う	まあそう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	あまりそう思わない	まったくそう思わない
(1) 近所に顔見知りが増え、地域で暮らす安心感につながる	1	2	3	4	5	6
(2) 保健師と定期的に会うので、いざというときの安心感につながる	1	2	3	4	5	6

問10. 定期的に体操に参加していた方が、急に休むようになったとき、あなたはどのようにしていますか。あるいは、どうすると思いますか。あてはまるものいくつでも○をつけてください。

- 1. 自宅を始めるか、電話をして様子うかがう
- 2. 保健師に相談し、様子うかがう
- 3. その人と交流のある誰かに様子うかがう
- 4. その人がまた参加するまで、様子を見る
- 5. その人が休んでも気にしない
- 6. 誰かが休んでも気が付かない
- 7. その他()

問4. あなたもしくは誰かが会館についたとき、自分から挨拶をしますか

- 1. 基本的に挨拶はしない
- 2. 顔を知らなくても挨拶をする
- 3. 顔を覚えていたら挨拶をする
- 4. 声を交わした相手なら挨拶をする
- 5. 友人とは挨拶をする

問5-1. 「みんなの公園体操やいさい体操」の人たちのなかで、どの辺りに住んでいるのを知っている人は何人くらいいらっしゃいますか。(○は1つ)

- 1. 0人(いない) 2. 1人くらい 3. 2~3人くらい
- 4. 4~5人くらい 5. 6~9人くらい 6. 10人以上

問5-2. 「みんなの公園体操やいさい体操」の人たちのなかで、電話番号やメールアドレスを知っている人は何人くらいいらっしゃいますか。(○は1つ)

- 1. 0人(いない) 2. 1人くらい 3. 2~3人くらい
- 4. 4~5人くらい 5. 6~9人くらい 6. 10人以上

問5-3. 「みんなの公園体操やいさい体操」の人たちのなかで、家族構成(一人暮らしかなど)を知っている人は何人くらいいらっしゃいますか。(○は1つ)

- 1. 0人(いない) 2. 1人くらい 3. 2~3人くらい
- 4. 4~5人くらい 5. 6~9人くらい 6. 10人以上

問5-4. 「みんなの公園体操やいさい体操」の人たちのなかで、あなたが活動を休んだ時に心配して連絡してくれる人は何人くらいいらっしゃいますか。(○は1つ)

- 1. 0人(いない) 2. 1人くらい 3. 2~3人くらい
- 4. 4~5人くらい 5. 6~9人くらい 6. 10人以上

問6. 体操の場(会館)は、あなたにとって居心地の良い場ですか。(○は1つ)

- 1. 非常に良い 2. とても良い 3. 良い
- 4. あまり良くない 5. 良くない

問7. 集団でおこなう体操の時間は、あなたにとって負担な時間ですか。(○は1つ)

- 1. 非常に良い 2. とても良い 3. 良い
- 4. あまり良くない 5. 良くない

- 2 -

問11. だれもが気軽に体操に参加できる場にするために、両方かの行動をしたり、しようと思っ
ていますか。もっとも近い番号に1つだけ○をつけてください。

- 1. 半年以上前から行動している
- 2. 最近行動を始めた
- 3. 1ヶ月以内に何か行動をしたいとは思っている
- 4. 近い将来(半年以内)何か行動をしたいとは思っている
- 5. 今のところ何か行動しようとは思っていない
- 6. そういう感じになくてもよいと思う

問12. あなたは、この1年間で「みんなの公園体操やいさい体操」への参加をだれかにすす
めましたか。

- 1. すすめた 2. だれにもすすめていない

問12. 何人くらいにすすめましたか。()人

問13. 今後、体操活動をまわりにすすめていきたいと思いませんか。

- 1. 積極的にまわりにすすめたい
- 2. 機会があればまわりにすすめたい
- 3. だれかに勧められたらすすめたい
- 4. 特にすすめる気はない

問14. 全般的に言って、「みんなの公園体操やいさい体操」活動にどのくらい満足していますか。(○は1つ)

- 1. おおいに満足している 2. どちらともいえない 3. 満足していない
- 4. あまり満足していない 5. まったく満足していない

- 3 -

- 4 -